大空と雑草の詩

〈連載第五回〉

“ガロ”第八作品

真実一路の旅なれど
真実鈴ふり思い出す
（山本有三著〝真実一路〟より

S41年4月22日作品
〝おおぞらとざっそうのうた〟

作・おがわ　あきら

や、安さんの一家が自殺したんだって……
えっ！

ザッ

みんな一生懸命に生きているのに……
どうしてこんなに苦しまなければいけないいんだ!!

高堂さんっ!!

佐土原さんっ！

あなたの所へ剛田さんが来なかった……

うん今、来たけれど……
何だかようすがおかしいんだ！
ええ
剛田さんがピストルでお父さんともう一人の人を撃ってにげたんですって……

エッ
私も警察の人が家へ訪ねてくるまで
全然知らなかったんだけど…
……
ザ
ザ
ザ
………
まだこの近くにいるかもしれない
……
僕は剛田をさがしてみる!
私も行くわ!

ウム…
…………
あとをつけろっ！
ハッ

剛田のバカめ！
バカ……
……

ボウッ

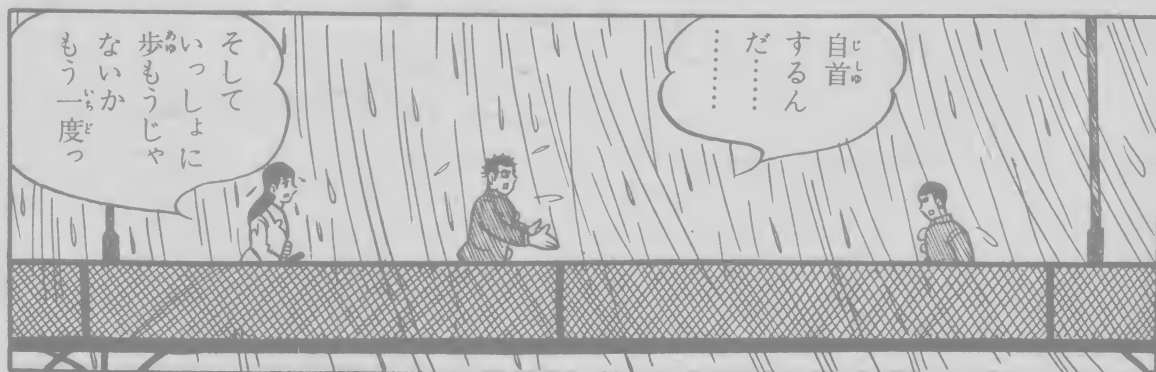
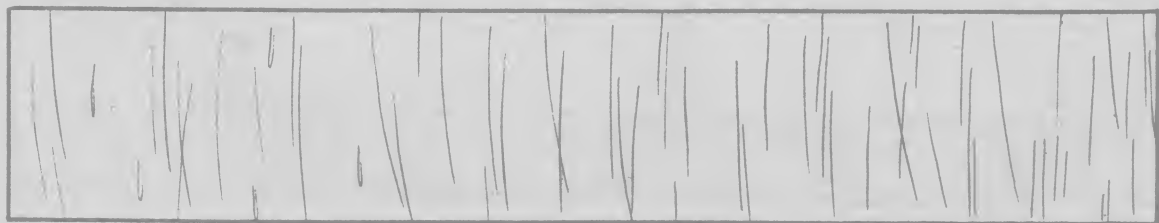
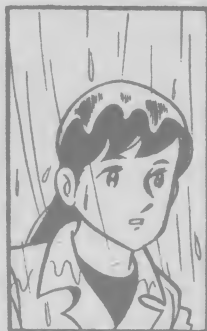
ガッシュ
ガッシュ
ガッシュ
ガッシュ
ガッシュ
ガッシュ

ガタ
ガタン

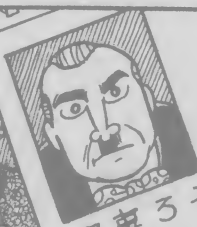
剛田っ!!
高堂っ!!
君は…………
……………なんて、ことをしたんだ!!
俺は法律でも裁ききれない悪人をこの手で裁いてやっただけさ……
いや、ちがう……
君はその悪人に負けたんだ!!!
なにっ
俺が悪人に負けただと……………
そうだよ………
悪人を裁く方法はもっとほかにあるはずだ
君はその悪人と同じ……いやそれ以上の罪を犯してしまったのだ………
ムッ…………………

剛田くん………
こういう矛盾を見つけれ
ばこそ、僕たちが一生懸
命生きなければいけない
んだ。
僕たちの時代にこそ、人
間同志が信じあえる世の
中を作らなければいけな
いんだよ………

剛田隆だな！
!!
署まで来てもらおう……
二人とも軽い傷ですんだよ……
…………

毎朝新聞（昭和

ガロ"百万部突破

漫画界で注目されていた雑誌"ガロ"がとうとう百万部突破した。喜んだのは編集長の長井勝一氏とその長井氏である。白土三平氏に記者がインタビューしてみ
「今まで赤字で出してきましたがやっぱり良い漫画は世の

父親と議員をピス
恐るべき十五才の少年

二十三日午後八時ごろ、南町剛田組事務所で社長の剛田三郎氏と、用事で来ていた○×議員の黒田岳二郎氏がピストルで射たれて苦しんでいるのを社員の木沢喜三さんが発見した。犯人は長
Aで、かねて注目さ
不良で
青少
という
しか
警
シ

由紀子さ
ん結婚して
下さいと云
ったら、あっさ
り断わられ

近く
バー「エデン」
飲んでいるらしい

毎朝

生活を苦にして親子心中
長男だけは助かる

二十三日午後九時二十分ごろ市内下町の"ごうたら長屋"に住んでいる無職・関安三さんと妻の真知子さんと長男良介くんの三人が自殺しているのを近所の人が発見して警察へ届け出た。原因は前の勤め先が倒産し、この不況で仕事が

南條美和さんに少女クラブを返そうと、山本隆くん奥村真佐子さんに頼んだら、彼女は寝てばかりいた

漫画家餓死する

二十三日午後一時ごろ漫画家、水木しげる氏宅門前で漫画家小川晃氏が餓死しているのを、つげ義春氏北川義和氏が発見して届小川氏は二十日間何も食

ただいま！
ああおかえりっ
の用心

ごくろうだが朝ごはんができたから安さんとこの良介ちゃんをよんできておくれよ！

ドンッ
ドンッドンッ
ドン

おーい良介く〜んごはんの用意ができたよ!!

かわいそうに……ひとりっ子として育ったのに急に両親を失ったんでは……
外へ一歩も出ず家へとじこもったきりだ！

良介くん……
さあ
元気を出していっしょにごはんをたべよう
うるさいなっ
ごはんなんかいらねえや
だけどそんなことをしていたら体をこわしてしまうよ!
フンッ
にいちゃんにおいらの気持ちがわかってたまるか!!
きみの気持ちはよくわかるよ……
僕も君と同じころお父さんをなくしたから……

…………
でもな……
こんな事に負けてはだめなんだ！

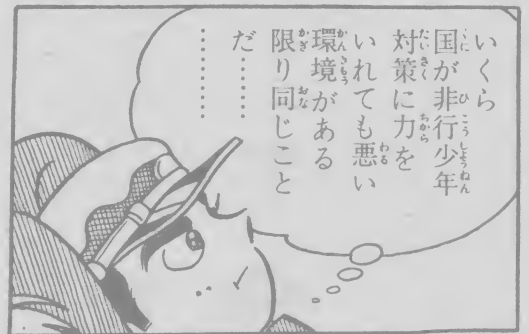
君よりもっと不幸な人たちが全国にたくさんいるんだよ だけど、みんな力いっぱい生きているんだ……… がんばろうよ！

………
………
………

ごはんの用意をしておいとくから
おなかがすいたら食べにくるといいよ……

………
………

おにいちゃん!!

いや……
今まで騒がれてきた多くの非行少年にも言えることだ。
僕がその少年たちと全く同じ環境で、同じ育て方で育てられていたら、どうだっただろう……
多少は違っても、同じような事をしていたのではないだろうか……

大人には少年が善悪を判断できる力をつけてやらなければならない義務があるんだ。

剛田さんのことを考えていたのね………
う、うん…………

あいつの将来のことを考えると……

そうそう……
高堂さんあなた自身の進路はきまったの？

うん……
岩山先生の紹介で新聞社で昼は給仕をしながら定時制高校へ行こうと思っているんだ……
そう……私も高堂さんのことを家の人に話したのよ

やっぱり あなた自身の為に もっと勉強した ほうが良いと 思うわ………
父も あなたさえ 良ければ援助 したいって いっていたわ

ありが とう…………

だけど 自分の力で やれるだけの ことを やってみるん だ!!

あの大空のように 大きく…………

そしてこの雑草のように 強く生きるんだ

定時制 だって 普通高校に 負けない さ!!

がんばってね!!

ワイワイワイワイ

3年A組
ガヤガヤ
ワァァ

ガラリ
ガヤガヤガヤ…
……

どうしたんだ谷田っ!
おうっきたか高堂っ!

昨日の職員会議で剛田をほかの学校へ転校させることに決まったらしいんだ

!!
PTAの圧力だな……こりゃ
卒業も一年おあずけだな……いかんずよ彼の心の傷をふやすだけだ
ダッ
廊下は静かに
あっおい高堂っ!
校長室
校長お願いですっ!
卒業まであと半月です剛田をなんとか卒業させてやって下さい
スカスきみい……なんだよ……
これはPTAのいっている名誉とかなんとかという問題じゃないですよ!!
一人の少年の将来がかかっているんですよ!!

スカスネエ………
PTAの意見も無視できないだろうがナ

ですが校長の力でなんとかできるはずです！
教育にもっとも大切なのは愛情のはずです！

岩山さんもうよしなさいよ……

ねえ この問題は私たちに責任は無いんですよ………
今回はおとなしく校長さんのいうとおりにした方がお互いにいいんじゃないですかネ
そう そう ……

バターン

大人たちにも責任はあるはずだっ!!

ちがう ちがう あなたたちの責任だ!!

一人や二人ではだめかもしれない……だがみんなが力をあわすんだ……

アリを見たまえ あれだけの数が集まればこそ あの力が出せるんだ……

エジプトのピラミッドだってそうだ 一人の人間が何年かかってもあの巨大な建物はできない みんなの力だ!!

〝ガロ〟八月号に
つづく

〈昭和41年4月22日完成〉

☆この作品に対する批評や、青春漫画に対する意見をお知らせ下さい。

〈送り先〉
金沢市額新保町84―49の5
小川晃

作者の眼

●今日の朝刊を見て驚いた。東京のある老人が、死をかけて、政治の貧困に抗議したというのだ……

「私のような身寄りのない老齢者にとって社会は厳しすぎる。十数年間、働きに働き続けましたが、もはや老衰で生きる力も尽きました。これ以上生きてゆけば社会に迷惑をかけるだけです。つくづく政治の貧困と社会の矛盾を痛感します。一日も早く老齢者の生活保障を定めて下さい…」と、総理大臣・厚生大臣に嘆願書を残して死んだそうだ。

僕自身「大空と……」を書き、投書などを頂き、今の日本に多くの貧困者がいることを深く痛感しました。

世の中が派手になるにつれて、このような一部の片隅に生きている人が忘れられがちなのです。でも現実に、このような人が日本にいるのです……たとえ、一人でも二人でも、このような人がいることは、私たちの責任でもあり、本当の意味の自由主義国家といえないのではないでしょうか。

41・4・12記

「大空と雑草の詩」を読んで

東京都荒川 D・K

（略）……僕は家が貧しくて高校へ行けませんでした。中学時代先生もプラスになる生徒以外は見むきもせず、定時制すらおしえてくれなかったのです。学校へ行きたいという気持ちがすてきれず、色々調べ、現在定時制高校の一年です。2年のブランクがありましたが、今は幸せです。定時制というと特別な目で見る人が多く、そのくせ人前では「定時制はしっかり者が多い…」と空世辞を言う。事務所・工場どちらでも役立つ人が定時制にいるのです。〝ガロ〟をとおして、定時制学生の真の姿を小川先生に描いて頂きたいのです……。（略）